



歯を“1本”失うということ

治療の手がほどこせなくなってしまった歯の最終手段は、抜歯するしかありません。

今回は、“歯を失うということが人の体にどんな影響を与えるのか”についてお話ししたいと思います。

大人の場合、通常、歯は上が16本、下が16本の全部で32本(親知らずを含む)生えています。この上下32本の歯はそれぞれバラバラに機能するのではなく、上の列と下の列、それぞれが1セットになっていて、噛み合うときにかかる力を分散させて効率よく物を噛んでいます。

ですから、歯が1本でも無くなってしまうと、噛み合わせが崩れ、噛む力に大きな影響を与えてしまいます。例えば、食べこぼしをしてみたり、飲み込みがうまくいかず、胃に負担がかかってみたり…。



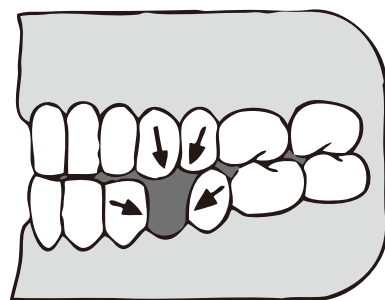
また、前歯を無くしてしまった場合、まず見た目が悪くなることを考えてしまいますよね。そして、見た目を気にすると、口元を隠そうとして口を大きく開けることができず、対人関係に支障をきたすこともあるでしょう。また、抜けた歯の隙間から空気がもれ、はっきりとした発音で話すこともできなくなってしまいます。

しかし、なにより最も大変なことは“食べ物を噛む”ことがうまくいなくなってしまうことです。例えば、奥歯は食べ物をすりつぶしたり噛みくだいたりしますが、片方の奥歯が抜けてしまうと、もう片方の奥歯ばかりで噛むようになり、噛み合わせにゆがみができてしまいます。また、下の奥歯が抜けてそのままにしていると、その歯と噛み合わさっていた上の奥歯が、下の空いてしまった隙間に向かって出っ張るように伸びてきて、歯の根がむき出しになってくることもあるのです。

1本無くなってしまうと全体の歯ならびにも影響を与えてしまいます。

歯を支える骨は常に再生をしていますから、歯が抜けてしまったことでそこに空間ができると、隣の歯が徐々に傾いてきてしまいます。そして、それをそのままの状態にしておくと、抜けた歯の隣や上の歯だけにとどまらず、ほかの歯もどんどん移動してきてしまい、全体の歯ならびが悪くなって噛み合わせもうまくいけなくなり、きちんと物を噛むことができなくなってしまいます。

歯を抜けたままにしておくと…



周りの歯が抜けた歯の空間に向かって移動していきます。

このように、抜けた歯のところにできた空間は、そのままずっと同じ状態ではないのです。

そして、こうして徐々に傾いてきてしまった歯には大きな負担がかかってしまい、その結果、健康な歯に大きなダメージを与えてしまうのです。また、歯ならびが悪くなると、歯ブラシが歯の隅々まで行き届かなくなってしまい、みがき残しができて、おし歯や歯周病にかかるリスクも高くなってしまいます。

このように、お口の中はまるで積み木細工のようなもので、一つが崩れると全部が崩れてきてしまうのです。

「たかが歯一本」でも「されど歯一本」なのです。